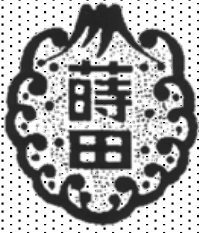


学校教育目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」



まい、た

令和8年度

5月号

令和8年4月27日

<http://www.educity.yokohama.lg.jp/school/es/maita/>

「自律」「対話」「創造」～子どもが育つ学校～

校長 鳥飼信幸

目にも鮮やかな新緑の季節を迎えました。草花の芽吹く様子は、健やかに成長する子どもたちを思わせ、教育の夢が広がります。

入学・進級を喜び元気に登校している子どもたち、不安や悩みを抱えながら登校している子どもたち、一人ひとりの気持ちは様々です。保護者のみなさんのご協力のおかげで子どもたちは登校することができています。ありがとうございます。また、学援隊のみなさんの安全確認、地域の方々の見守りがあってこそです。ありがとうございます。

昨年度も記載いたしました。始業式、入学式で話しました「やさしさいっぱい」「やる気いっぱい」「げんきいっぱい」は、本校の学校教育目標です。それをキーワード化すると「自律」「対話」「創造」の言葉となります。

学習や活動、行事など、すべての教育活動で「子どもが育つ学校」にしていくための目標としています。(学校の主役は子どもであるので、「子どもを育てる学校」ではなく、「子どもが育つ学校」としています。主語が先生ではなく、子どもとしています。)

「自律」を育てるためには、大人がなんでも介入しないことです。「この子のため」という行動が、実は自分で考えたり自分で決定したりする力が育たなくなってしまう。うまくいかないことがあったときに、自分で解決できなくなってしまう。人のせいにしてしまったり、自分はダメな人間だと思ってしまう。そんな人になってほしくないです。しかし、命に関わることやいじめ、差別、人権にかかわる問題等は、未然に防ぐことも含め、大人の力が必要です。

次に「対話」は、ケンカが起きた時、「人はみんな違う」を前提に「対話」をするようにします。私たち学校では、「どうしたの?」「あなたはどうしたいの?」「なにを支援してほしいの?」と聞きます。子ども自らが自己決定をするようにしていきます。

「創造」は、未来の社会に向けた準備段階の場でもある学校として、日々の学校生活を通して、自分らしさを発揮し、未来の創造を目指します。ICT や AI などによる急激な教育変化、グローバル化、多様性、多様な価値観、災害や感染症による問題など、将来を予測することが困難な時代だからこそです。変化に対応できる人になってほしいです。

「自律」「対話」「創造」の3つの目標を達成することは大人である私たちもとても難しいです。しかし、少しでも近づくこと、目指すことはできるとおもいます。

また、「子育て」に関して、今年度の入学式でも私の子育ての失敗談をお話しました。私も試行錯誤しながら「子育て」をしています。

陥りやすい子育ての傾向が「干渉」「矛盾」「溺愛」だと心理学の研究でわかってきました。一つ目が、「干渉」です。口を出し過ぎる、世話をやきすぎること。二つ目が「矛盾」です。子どもから見ると保護者が話したり行動したりすることに「矛盾」を感じてしまうこと。最後に、「溺愛」です。過度に甘やかすこと。例えば、「このままでは失敗する」といった保護者の「不安」によって、「やってあげなければならない」「友達とのケンカをなんとかしてやらなければならない」と過度に先回りする「干渉」、子どもへの「干渉」を正当化しようとすると、「乗り越えて成長してほしい」という過去と現在の発言に「矛盾」

が生じます。「干渉」「矛盾」「溺愛」の3つは互いにかかり合っています。

「子育て」には、正解がありません。また、学校でも「自律」「対話」「創造」の3つの目標を達成することはとても難しいことです。私たち学校でも試行錯誤しながら「教育」をしています。「教育」も正解がありません。

だからこそ、「子育てをがんばっている保護者」と「教育をがんばっている先生」、地域が一体となり、「子どもを幸せにする」「社会でよりよく生きていくことができるような力を身に付けていく」という願いをもち、保護者も先生も地域もお互い尊敬し合って、「子どもが育つ学校」にしていきたいと思います。ご相談はいつでもかまいません。

また、大人である私たちの行動を子どもたちは見ていることも感じています。子どもたちは、かかわる大人から大きな影響を受けます。それはまさしく、家族であり、先生であり、社会の大人たちです。私たちも「自律」「対話」「創造」を目標に、家族をはじめ、他者を大事にし、誰に対しても思いやりをもって接する大人や何事にも誠実に一生懸命に取り組む大人、この善悪を正しく判断しようとする大人、そして、社会の一員として担う責任を果たしている大人などにかかわる子どもたちは、必ず豊かな成長を遂げていくに違いありません。

「大人である私たちの行動を子どもたちは見ていること」のひとつ、『『少しでも余分な親切』を周りの人に返していきたいです。また、同じような考えをもつ仲間が一人でも増えたら、私たちみんなにとって、よりよいものになると信じています。』と、以前中学校へ入学した新入生代表の言葉です。学習活動を通して、「家族や地域の方々のたくさんの親切にふれ、みなさんの応援の言葉がうれしく、今でも心に強く残っています。』と最後に話しました。

よりよい教育には、よりよい大人の姿が大きな力となります。子どもたちにとって「素敵だな」と思われる大人になれるよう、私も努めていきます。

今後も、大人のみなさんが Our Team で、「子どもが育つ学校」にしていきたいと思います。

母校は昨年度の全国大会出場の後、3年生が卒業し、1、2年生による全国選抜大会の予選が行われ、県の準決勝で敗れ、悔しさが残る結果となりました。しかし、その悔しさがあるからこそ、次に向かって努力し続ける意味があります。転んでも立ち上がり、仲間とともに前へ進む——。そのひたむきなプレーを見て、私自身も「蒔田小の教職員と一緒に、もう一度原点に立ち回り、子どもたちのために全力でがんばっていこう」と決意しました。ラグビーは、私を原点回帰させてくれる存在です。今後も、ラグビーにまつわる出来事を折に触れて書いていきます。